

いちごのハダニ類が平年よりも多く発生しています

-早期発見・早期防除を徹底しましょう！-

1 発生状況等

10月のいちごの発生予察調査では、ハダニ類の発生が多い状況です（発生ほ場率 31.7%（平年比 224.8%）、寄生株率 8.0%（平年比 258.1%））。

気象庁の1か月予報（令和8（2026）年10月8日発表）によると、今後1か月の平均気温は平年より高い見込みであるため、発生の増加が懸念されます。今後、ハダニ類の発生状況をこまめに確認し、早期発見、早期防除を徹底しましょう。

2 被害

いちごでは、主にナミハダニやカンザワハダニが発生します（写真1）。ハダニ類が発生すると、葉裏の褐変や葉表のかすり症状（写真2）がみられます。多発すると株の生育不良や果実の品質低下（写真3）を引き起こします。

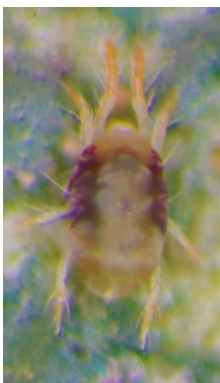


写真1

左：ナミハダニ
右：カンザワハダニ



写真2

いちご葉の
かすり症状



写真3

いちご被害果実

3 防除対策

- （1）施設内外の除草を徹底する。また、除去した葉はほ場外で適切に処理する。
- （2）多発すると密度の抑制が困難になるため、早期発見・早期防除を徹底する。特に、天敵を活用する場合は、天敵導入時にハダニ類の密度が高いと十分な防除効果が得られないため、天敵導入前に薬剤防除等により、ハダニ類を低密度に維持する。また、天敵導入後は、天敵への影響が小さい薬剤を使用する。
- （3）ハダニ類は葉裏に寄生するため、薬剤散布時は薬剤が葉裏に付着するように、十分な薬液量で丁寧に散布する。
- （4）化学農薬に対する感受性が低下しやすいため、必ずローテーション散布を行うとともに、薬剤抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
※参考（いちごに発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果）
- （5）薬剤の選定にあたっては、使用時期などラベルをよく確認し、天敵やミツバチ等への影響を考慮する。

表1 いちごのハダニ類に登録のある主な薬剤（令和8年10月9日現在）

農薬名	希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数	IRAC コード
ダブルシューターSE	1000 倍	収穫前日 まで	散布	2回以内	未分類・5
アフーム乳剤	2000 倍	収穫前日 まで	散布	2回以内	6
コロマイト水和剤	2000 倍	収穫前日 まで	散布	2回以内	
カネマイトフロアブル	1000～1500 倍	収穫前日 まで	散布	1回以内	20B
マイトコーネフロアブル	1000 倍	収穫前日 まで	散布	2回以内	20D
グレーシア乳剤	2000 倍	収穫前日 まで	散布	2回以内	30
ダニオーテフロアブル	2000 倍	収穫前日 まで	散布	2回以内	33
ボタニガードES※	1000 倍	発生初期	散布	－	UNF
フーモン※	1000 倍	収穫前日 まで	散布	－	UNE
エコピタ液剤	100 倍	収穫前日 まで	散布	－	未分類
サフオイル乳剤	300～500 倍	収穫前日 まで	散布	－	
サンクリスタル乳剤※	300～600 倍	収穫前日 まで	散布	－	
ピタイチ	500 倍	収穫前日 まで	散布	－	
ムシラップ※	500 倍	収穫前日 まで	散布	－	

農薬の使用にあたっては使用方法及び使用上の注意事項を確認し適切に使用する。

詳細については[栃木県農作物等病害虫雑草防除指針](#)を参照。

※ 野菜類のハダニ類で登録。

詳細は、農業総合研究センター 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せ下さい。
 病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、
 農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）
 でもご覧いただけます。

